令和３年　３月

■絵本

「みえないこいぬぽっち」

・作：ワンダ・ガアグ

・訳：こみやゆう

・出版社：好学社

　ある農園の片隅に子犬の三きょうだいが住んでいました。

　しかし、その中で姿が見えない子犬が一匹。とにかく見えない、これっぽっちも見えない三番目の子犬の名前は「ぽっち」。三匹はそんなことは気にせず仲良く暮らしていました。

　ある日、幼い人間の兄妹が三匹を見つけ、「ぽっち」だけを残して子犬を家に連れて行ってしまいます。姿が見えない「ぽっち」はどうなってしまうのでしょうか。

　きょうだい子犬と会うためにがんばる「ぽっち」に思わず応援したくなります。

　作者は、『100 まんびきのねこ』で高い評価を受けたワンダ・ガアグ。またこの作品は、アメリカの児童賞コルデコット・オナー賞を受賞しています。

　（対象　幼児から）

■児童書

「捨て犬・未来、しあわせの足あと」

・著者：今西乃子

・写真：浜田一男

・出版社：岩崎書店

　著者の今西さんは、今から 15 年ほど前、右目がざっくりと切られ、ひどく化膿していたうえに、右後ろ足も足首から下を切断されてる生後1ヶ月を過ぎたころの柴犬の里親募集中のブログを見つけました。そんな障害をもった柴犬につけられた名前は、「未来」。新しい飼い主をして名乗りを上げるかどうか悩みましたが、「縁」を大切にし、未来の飼い主になることに決めました。

　その未来と今西さんが、生きづらさを感じている子どもに希望をとどける「命の授業」を行ってきました。未来が今西さんの元に来るまでの経緯を写真とともに伝え、最後にはサプライズで未来を登場させ、子どもたちとふれあってもらうプログラムです。

　体と心のハンディと上手に付き合い続けた未来の 15 年間が描かれています。

　（対象　小学校高学年）

■一般書

「養生訓」

・著：貝原益軒

・訳：松田道雄

・出版社：中央公論新社

　養生とは、生活に留意して健康の増進を図るということ。特に今、コロナ禍の中で、誰でも健康でありたいと願い、普段の生活の中に取り組んでいる健康法もあると思います。

　江戸時代、人生 50 年時代に書かれ、80 過ぎまで生きた儒学者貝原益軒が「養生訓」の中で説く養生とはどんなものでしょうか。

　忙しい現代人にも通じる「心の養生の重要性」。心はからだの主人であり、からだは心の下僕であるとする養生訓から、人生 100 年時代をより楽しく生きる健康法が見つかるのでは…。

　（対象　一般）